

夏休みに予防接種を受けましょう

乳幼児期に受けた予防接種は時間が経過するにつれて効果が低下していきます。幼稚園・小・中・高校生で追加接種を行い、感染症から体を守りましょう。次の予防接種を受けていない方は夏休みのうちに接種しましょう。接種費用は無料です。



■予防接種対象者

予防接種名		対象者（接種年齢）
麻しん・風しん混合予防接種	2期	平成 18 年 4 月 2 日～平成 19 年 4 月 1 日生まれ（小学校入学前 1 年間）
	3期	平成 11 年 4 月 2 日～平成 12 年 4 月 1 日生まれ（中学校 1 年生に相当する年齢）
	4期	平成 6 年 4 月 2 日～平成 7 年 4 月 1 日生まれ（高校 3 年生に相当する年齢）
二種混合予防接種 （ジフテリア、破傷風を予防します）		11 歳以上 13 歳未満

■接種方法

加西市指定医療機関へ電話予約してください。指定医療機関は、広報かさい 4 月号と一緒に配付の「親子の健康づくりカレンダー」でご確認ください。

■接種に必要な物

予約票（医療機関及び健康課にあります）、母子健康手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）

【問合先】 健康課・健康係 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

健康達人講座 参加者募集

加西市医師会の医師等を講師に迎え、毎回テーマを変え健康についての講座を開催します。希望者には保健師・看護師による個別相談を実施します。

■対象／加西市民で希望する方。50 名（先着順）。参加費無料

■月日・内容／希望する講座のみの参加も可能



月 日	内 容
8 月 9 日（木）	「吸う人と吸わない人のたばこ講座～たばこと COPD（慢性閉塞性肺疾患）について～」 講師／堀井幸恭医師（堀井内科医院） ※後半 15 分ゆうゆう会による体操・保健師ミニ講座
8 月 23 日（木）	「胃がん・大腸がんと予防について」 ※後半 15 分栄養士ミニ講座 講師／織田耕三医師（おりた外科胃腸科医院）
9 月 14 日（金）	健診結果説明会 ※後半 15 分保健師ミニ講座 講師／荒木悟医師（荒木医院）
9 月 28 日（金）	「メタボリックシンドロームと肥満について」 ※後半 15 分栄養士ミニ講座 講師／鍵岡朗医師（みのリクリニック）
10 月 4 日（木）	「心の病気と予防について」 ※後半 15 分リラクゼーション体操 講師／京谷泰明医師（京谷医院）
10 月 12 日（金）	「狭心症・心筋梗塞と予防について」 講師／安積啓医師（安積医院）
10 月 26 日（金）	「脳卒中の予防と早期発見について」 ※後半 15 分保健師ミニ講座 講師／堤明医師（つつみ神経内科）
11 月 7 日（水）	「歯周疾患と生活習慣病について」 ※後半 15 分栄養士ミニ講座 講師／柏原正義歯科医師（かしわら歯科医院）
11 月 22 日（木）	「膝痛・腰痛と予防について」 ※後半 15 分ゆうゆう会による体操 講師／三輪篤子医師（坂部整形外科）

■時 間／13:30 ～ 15:00（10 月 4 日のみ 13:45 ～ 15:30）※受付は各 15 分前から

■場 所／健康福祉会館 2 階研修室

■申込方法／7 月 2 日（月）から受付開始。下記へ直接、または電話でお申し込みください。

【問合先】 健康課・健康係 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

見えて来た一体改革のなかの医療再編

■一体改革

野田首相が「社会保障と税の一体改革」を盛んに発信しています。4 月に県立柏原病院を視察し地域の母親達が集まり、小児科を存続させた活動を称揚した記者会見の際、「地方の病院医療を成り立たせるためにも消費税増税が必要である」という意味の談話をしていました。

「日本は高齢化の進行で医療費増大に歯止めがかからない。国民医療費の 3 分の 1 は国庫や地方自治体が負担している。この財源を担保しないと、日本の医療体制は遠からず成り立たなくなる」というのは財務省と厚労省と総務省の共通認識です。

■診療報酬改訂が導く医療体制の方向

今年は 2 年に一度の診療報酬改訂の年です。日本の診療報酬制度では医療機関が行った診療に幾ら報酬が支払われるかを国が決めるため、関係者はその動向に敏感です。今年は医療と介護の同時改訂の年で、医療体制の今後の方向性が示されました。その方向とは在宅終末期医療と急性期医療再編です。

在宅終末期医療については、日本の年間死亡者は 2000 年に 100 万人弱であったものが 2025 年には 150 万人超となります。現在のように多くの日本人が急性期病院で死を迎える風習が続けば、病床が死にゆく人によって埋められてしまいます。このため国は在宅で死を迎えるよう誘導を図ろうとしています。

急性期医療の再編については、病院を 3 つのカテゴリーに分ける施策が登場しました。即ち、最も収益係数を高く設定するⅠ群が大学病院、次に係数の高いⅡ群は一

般病院のうち高診療密度の施設、最も低いⅢ群はその他の病院です。これは国の機能分化モデルである①高度急性期病院、②一般急性期病院、③回復期等病院の体制を誘導する一里塚であると考えられます。

厚労省の計画資料でみると、①の高度急性期は 18 万床で現在の一般病床の 5 分の 1 です。②の一般急性期 35 万床と合わせても 53 万床です。現在の半分の病床が急性期病院の形を失うことを意味します。その激変を緩和するためケアミックスを想定した「地域に密着した病床（24 万床）」が横付けされています。加西市の人口規模では「地域に密着した病床」の病院機能が想定されていると解釈されますが、この機能で医療者数や施設基準の面から現在のように救急を含む急性期医療を活発に続けることは困難と思われます。

■加西病院を支えるために

加西病院は市内唯一の急性期病院であり、市民医療になくてはならない社会保障の砦です。このような病院を今後も継続していくには、行政も市民も覚悟が必要です。行政による協力は、加西病院の急性期医療が委縮しない一般会計繰出金、市民が加西病院を守るという共通認識の醸造、人材支援などです。

市民協力が必要なのは、手術や高度の医療処置など病院の持つ高いレベルの医療の有効な利用、急性期医療が終わった後の迅速な退院や転院、救急の節度ある利用などです。癌手術は加西病院で受け、退院や療養施設への転院は自己都合を言わず、コンビニ救急は控えることが必要です。市民の皆様の理解ある協力をお願いする次第です。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）

市立加西病院職員募集（平成25年4月1日採用）

受験申込、試験日程、募集要項など、詳しくは市立加西病院ホームページでご確認ください。

職 種	採用予定人数	受 験 資 格
薬剤師	1 名程度	昭和 58 年 4 月 2 日以降に生まれた人で、薬剤師の免許を有する人、又は平成 25 年国家試験において同免許を取得見込みの人
臨床検査技師	1 名程度	昭和 58 年 4 月 2 日以降に生まれた人で、臨床検査技師の免許を有する人、又は平成 25 年国家試験において同免許を取得見込みの人
理学療法士	1 名程度	昭和 58 年 4 月 2 日以降に生まれた人で、理学療法士の免許を有する人、又は平成 25 年国家試験において同免許を取得見込みの人
看護師	12 名程度	昭和 38 年 4 月 2 日以降に生まれた人で、看護師の免許を有する人、又は平成 25 年国家試験において同免許を取得見込みの人
事 務	1 名程度	昭和 60 年 4 月 2 日以降に生まれた人で、学校教育法に基づく 4 年制大学を平成 25 年 3 月に卒業見込みの人

【問合先】 市立加西病院総務課 ☎④2200